

4 自己指導能力や相手意識の向上

内容 自己有用感や共感的な人間関係等、自己指導能力や相手意識の向上の取組や実践



1 取組に係る本校児童の実態について

- (1) NPUのアンケートや過年度の全国学力学習状況調査の児童アンケートから、自己肯定感が高い児童が多いということがわかっている。学年によっても違いはあるが、学校生活に関わる基本的な生活習慣や学習規律が、『自分は（自分達の学級は）できている』と感じている児童が多い。
- (2) 学校生活の中で課される課題について、クリアできているという意識が高いため、客観的に自己を見つめ、足りない部分を補い、より大きな目標に向かって進んでいこうという意識が弱い。
- (3) 素直で明るい児童が多く、教師側が設定した活動には、意欲的に取り組める。自分達で積極的に計画し、実践する力は十分とは言えない。
- (4) 個々の自己肯定感が高いが、集団の中で他者の気持ちを汲み、自分の良さを生かしながら関わるのが難しい。多様な仲間と関わりたいという意識の高い児童も少ない。
- (5) 学習内容の定着とコミュニケーション能力の向上のための『聞く力・聴く力』が課題であり、手立てが必要である。（昨年度のNPJの児童理解の話し合いの中から）

2 目的（取組の意義）について

- (1) 自己肯定感の高さを生かしながら、『七重小学校の中の大切な自分』を意識させ、自己有用感が高く、人との関わりを大切にできる児童を育てるための活動を取り入れる。
- (2) 学級ソーシャルスキルに取り組むことで、他者との円滑な関わり方を知り、自己を客観的に見つめる機会を意図的に設ける。
- (3) いじめの未然防止の観点からも、ストレス感情のコントロール、自己存在感・自尊感情を高めるための居場所づくりや社会性の育成を目指す絆づくり、落ち着いて生活を送ることができる環境づくりを大切にするために学級ソーシャルスキルを活用する。

3 内容について

- (1) 教師側が積極的に5つのS 「さすが！すごい！すてき！そうだね！すばらしい！」 の声かけをすることで児童の自己有用感を高め、児童間でも5つのSが飛び交うように働きかける。
- (2) 『七重小学校の中の大切な自分』を意識させるため、本年度は異学年交流を意図的に取り入れ、上の学年は責任感と自尊心を持って行う取組、下の学年は楽しかった、嬉しかった気持ちと感謝を伝える取組をすることで自己有用感を育む。
- (3) 道徳、学級活動、国語などの時間で、学級ソーシャルスキルを取り入れる場面を示す年間計画表を基に、『学級ソーシャルスキルだより』で提案されたターゲットスキル獲得のため活動例を参考にしながら、学年の発達段階に応じた取組をおこなう。

4 成果・課題・今後の方向性等

(1) 成果

- ① ソーシャルスキルについては、学年、学級まかせにせず、トレーニングの仕方や取組の時期について、アナウンスを続けることができています。また、各学年、各学級で工夫した取組が見られる。
- ② 初任段階の先生方への学級経営のヒントとなり、今後の財産になる取組となっている。

(2) 課題

- ① 学年によって、取り組める時間に差がある。高学年はコロナ休校の影響で児童の自己有用感や対人スキルを高めるための取組にまで手が回らない。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策から、異学年交流の仕方に工夫が必要である。

(3) 今後の方向性

- ① 1年後に、学級・学年での取組の様子や児童の変化について集約し分析していきたい。成果のあった取組については、その実践を残していき、全体へシェアしていきたい。
- ② 異学年交流については、自己有用感向上のための取組として、継続をアナウンスしていく。